

# 小P連だより NO.2

—多摩市立小学校PTA連絡協議会—

～子どもたちの未来と夢を応援する～

秋晴れの候、皆様におかれましては、お忙しい中でも爽やかな季節を満喫なさっているのではないのでしょうか。

平素より、小P連活動にご協力いただきましてありがとうございます。

さて今年度、小P連活動のテーマは『子どもたちの未来と夢を応援する』になりました。子供たちの心身の育成のために、以前とは違う形で行われる学校生活について、どのようなフォローや声掛けができるか、保護者の皆様と一緒に考えていきたいと思っております。

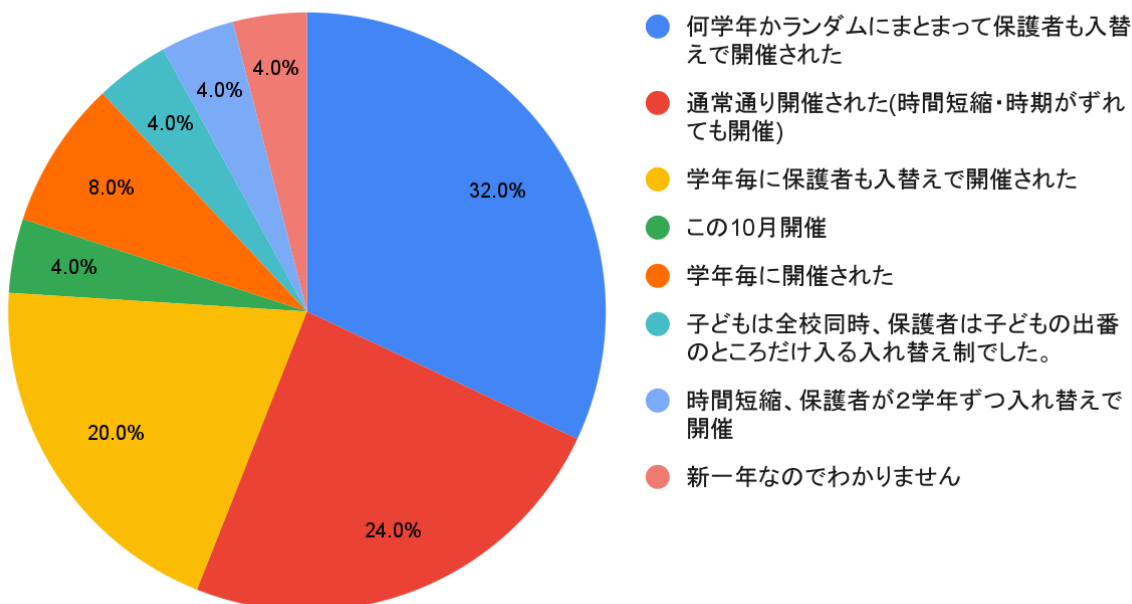
7月に予定されておりました「小P連第1回全体会」は、感染拡大の影響を受け、WEBアンケートに替えての開催となりました。各校の小P連担当者の皆様、アンケートへのご回答・ご協力ありがとうございました。

アンケート結果は、以下の通りになりました。

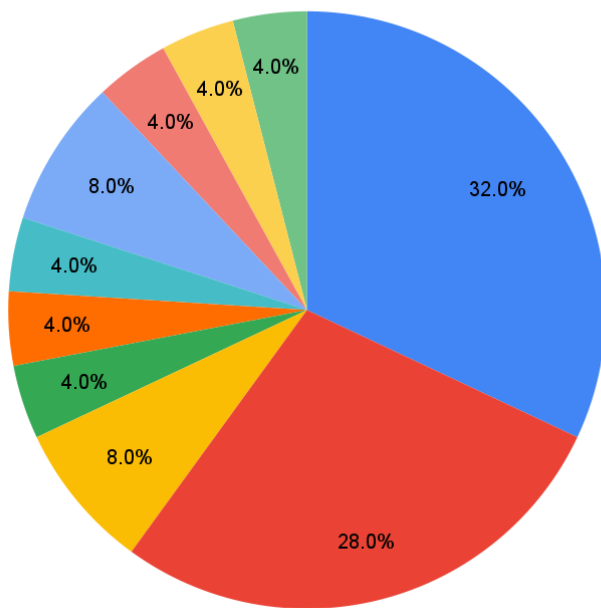
## 第一回全体会 WEBアンケート結果報告 2022年9月5日～9月12日実施

### Q.各校の行事開催について伺います

#### 運動会について

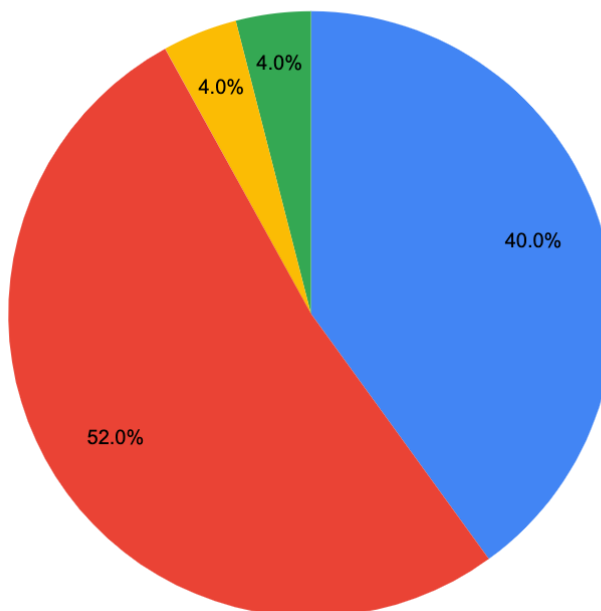


## 学芸会・合唱発表会などについて



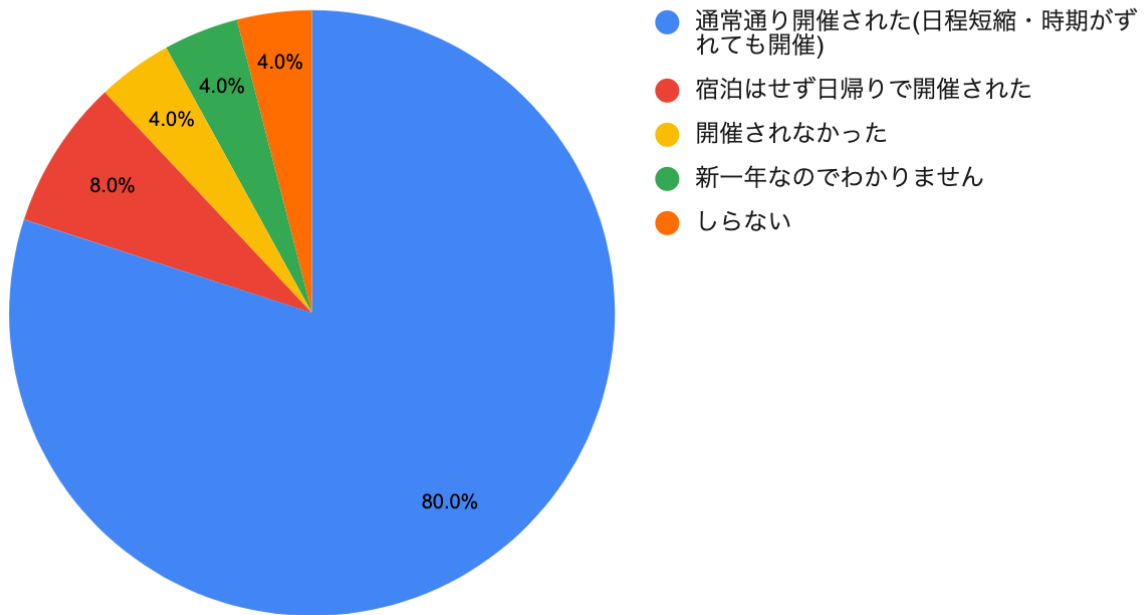
- 学年毎に保護者も入替えて開催された
- 開催されなかった
- これからなのでまだ不明
- ごめんなさい、おぼえてない、、、
- 通常通り開催された(時間短縮・時期がずれても開催)
- 何学年かランダムにまとめて開催された
- 学年毎に開催された
- クラスごとに開催された
- 学芸会は、オンラインにて後日配信されました。
- 新一年なのでわかりません

## 遠足・社会科見学などについて

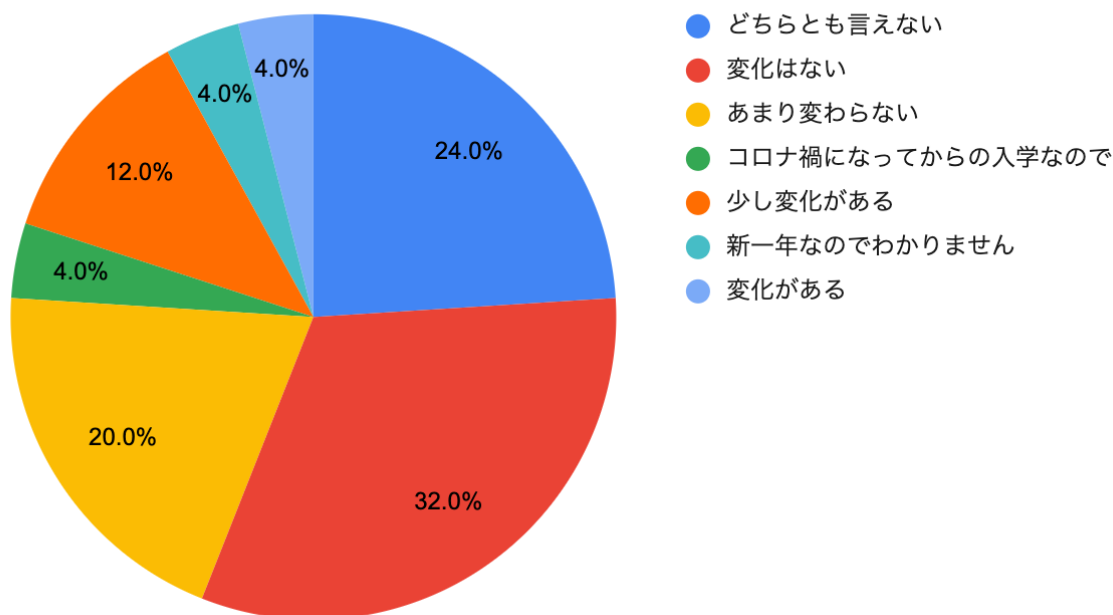


- 回数が減ったが開催された
- 通常通り開催された(時間短縮・時期がずれても開催)
- 新一年なのでわかりません
- 開催されなかった

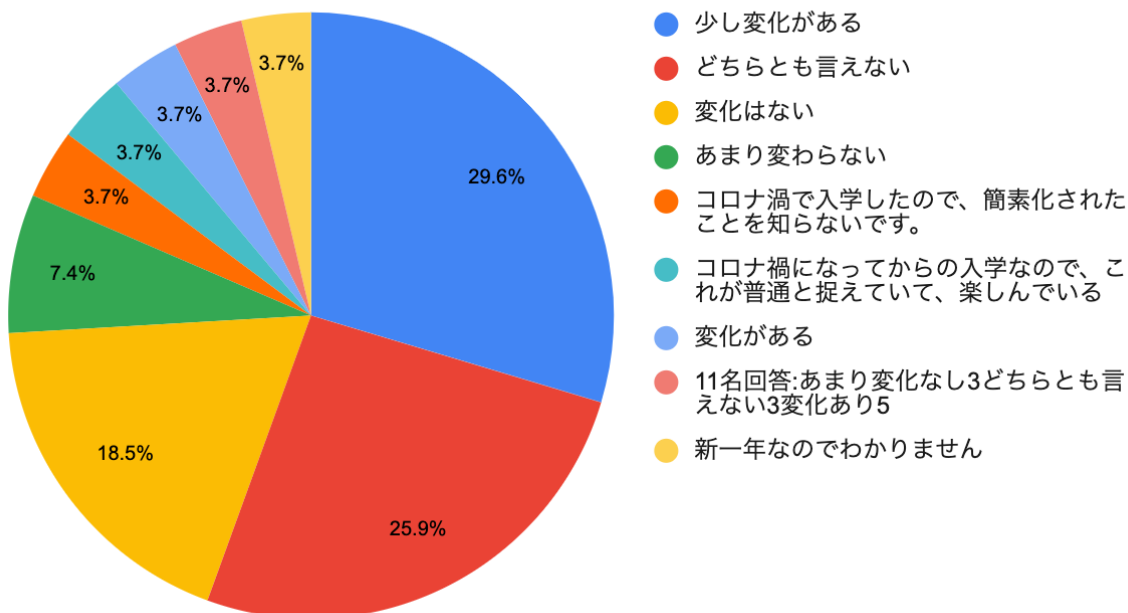
## 宿泊を伴うイベントについて



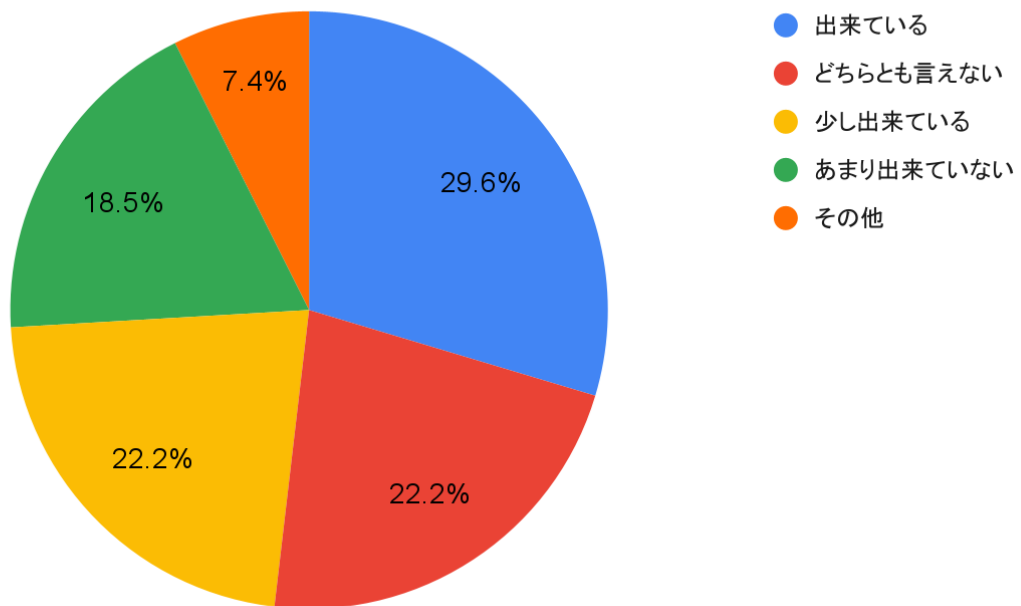
## イベントに対する積極性に変化はあるか？



## 友達との関わりや物事の達成感に変化はあるか？



## 連帯感/友達への思いやり/感謝の気持ちを体験出来ているか？



### その他(自由記述)

数少ないイベントをみんなで楽しもうという気合が感じられる。

明らかに子ども達の学校への意欲は低下している。授業だけでは養えないものもあるだろうし、中には勉強外で力を発揮する子どももいる中、行事の中止や縮小でそのチャンスがない。

イベントをどうにかして開催しようとしてくれる姿勢などとてもありがたく思っております。けどやはりイベントを有意義なものとなるかどうかは普段の日常の学校生活が充実しているかどうかだと思っております。連光寺小学校が！！というわけではなくほとんどの学校がそうだと思いますが、過度な感染対策などで、お友達の顔が見えない、先生の顔が見えない、思い切り歌えない、楽しく給食が食べれないという環境で学校を思いっきり楽しめているのだろうか？と疑問に思います。イベントだけに着目せず、普段の日常を楽しく有意義に「学校が楽しい！！行きたい！！みんなに会いたい！！」と思える場にするためにいまの状況を変えることはできないのかと日々思っています。子供の不登校、うつ、自殺はここ数年でまた確実に増えております。子供の健やかな成長を守るためにやれることはまだまだあると思っております。上記の連帯感、思いやり、感謝の気持ちは日々の人との繋がりがからかんじられるものだと思いますので、まだまだ改善点はあると思い「その他」を選ばせていただきました。

**Q. 学校でのイベントについて、ご意見・ご要望がありましたらお聞かせください。**

学校は、コロナ禍でも、子どもたちにできるだけたくさん経験をさせてあげようと、がんばってくれていると思います。保護者として、学校に協力したいと考えていますが、感染症対策を考慮するとそれもなかなか難しく憤りを感じます。学校側の需要と保護者側の供給を繋げられる機能をPTAが担うことができると、学校での行事やイベントなどの運営に、もっと協力できるのではと考えています。

コロナ禍で制限がある中、可能な限り行事を実施して頂けていると思います。

運動会のように、全学年でまとまって勝利を目指す、負けを体験するイベントは復活してほしい。運動会が、体育版の発表会みたいになっていて、もったいない。

コロナ禍で授業も通常通りとは行かない中、色々子どものために考え、工夫してイベントを開催していただいて、先生方はもちろん、受け入れ先等の関係各所の皆様に感謝しています。

難しい状況だと思いますが、対策を万全にしながらがんばって開催してくれていると思います。

学童期にしか得られない体験ができる機会は、安易に減らしてはいけなさと実感しています。子どもがどう感じているのかについて、注意深く知っていくと良いのかなと思います。大切なテーマを掲げて頂きありがとうございます。

三小は小規模校なので給食試食会や読み聞かせなども始まっていると聞きました。近隣の小学校と足並みを揃えてほしいです。

①まだまだ制限の中、開催は難しいですがなるべく通常に近い形で開催して欲しい。子ども達に学校生活での楽しい思い出を経験させたい。従来の形から縮小制限があったとしても、子ども達に学校行事を通じて目標を持ち多くの失敗や成功体験をさせてあげたい。②状況に応じてイベントの規模縮小はしても子ども達が「楽しかった、悔しかった、頑張った」など思い出と共に達成感を感じられるイベントの企画運営をお願いしたいです。③子ども達の思い出となる学校行事、イベントを通常に近い形での開催を希望します。

上の子がいると、コロナ前の様子を知っているので、物足りなさや子供達に対して不憫さを感じる。でも、先生方も様々な制限の中で一人一人が輝き、達成感が味わえる工夫をしてくださっているし、子供達にとっては「今」が全てで、今を一生懸命生きていることに胸が熱くなる。行事を通じて、個々が成長したり、他者との相互理解を深めたりすることができると思う。なるべく制限の少ない形で開催してほしい。

簡素化しても行事を実施した方が、子供達に良い変化をもたらすので、どんな形であれ実施して欲しいという保護者の意見が多数ありました。

ソーシャルディスタンスやマスクなどの感染対策もいつまでやるでしょうか？先日の甲子園の優勝校の先生が「青春は密」だと仰っていたように、子ども時代も密でしかないと思います。先生やお友達、地域の人の誰の顔も表情も見えず、わたしたち大人が体験したことのない景色の中で子ども達は暮らしています。子どもって、もまれたりぶつかったり、そんな風にして成長していくのではないのでしょうか？子どもが育つことに違和感はありません。いい加減子どものマスクはせめて外してあげてほしいと思います。これは学校側だけの問題でなく保護者含めて社会全体、大人の責任です。

今年度は去年よりかは開催予定です。

イベントをどうにか実施しようとしてくれる学校にとっても感謝しております。コロナ前のイベントがどのように行われていたのかを子供は知らない状況です。子供達の今という時間は繰り返しがききません。子供の成長を願うのであれば、もっともっとやれることはあるのではないかと感じてしまいます。子供の重症者リスクは少ないと分かってきている中でもまだまだ子供たちへのしわ寄せは大きすぎると思っております。この他者との繋がりの機会が薄れてしまった子供時代を過ごした子供たちがどういう大人になるのか疑問と不安があります。子供のことを一番に考えてイベントの開催、過度な感染対策の取りやめなど検討していただきたいです。

“密を避ける”“感染対策重視”を脱して、通常の学校生活に戻して欲しい。瓜生小は縦割り班活動を通して、年齢を超えての作業が特色であり、これをやらない方のデメリットのほうが大きいと思う。

## 総評

学校は勉強をする場所であるだけでなく、友達との関わりや行事を通して、人間として成長していく場でもあります。アンケート結果からは、各校がコロナ以前と変更をしつつも、行事を開催している様子が伺えました。コロナ禍でも、様々な工夫を施しながら行事を開催してくれている先生方には、とても感謝しているという意見が多数でした。

ただ行事、とりわけ運動会に関しては、簡素化されたことで、「お弁当を準備する手間がなくなった。」や「場所取りのために朝早くから並ぶ必要がなくなった。」等の好意的な声が聞かれる一方で、学年をこえた協力や勝ち負けを経験しないことへの弊害を心配する意見もありました。また、高学年の児童が、運動会の準備を通して、「運動会は自分たちが作り上げていくんだ！」という責任感が生まれる場所であったことも考えると、簡素化されたイベントは児童にとって果たして意義のあるものになるのかという声も上がりました。

運動会については、以前のように全学年が校庭に出て競技や演技を観戦する場合は、児童席にテントを設けたり、ミストシャワーを設置したりするなどの熱中症対策を講ずる必要があるという意見もありました。

また、全ての質問に共通して、低学年の児童の保護者からは、児童はコロナ禍以前の学校生活を知らないため、大きな不満を感じていないようだという意見も散見されました。これは、先生方の創意工夫が活きている・実を結んでいるということと言えます。しかし、コロナ禍の生活が、子供たちの健全な育成にどのような影響を与えているのかは、とりわけ低学年の子供たちについては、これから成長して初めてわかることかもしれません。子供たちを注意深く見守り、柔軟な体制で学校生活をつくっていくことが、保護者から学校への願いといえます。